

名 蔵 湾 保 護 水 面 調 査

杉 山 昭 博

本調査結果についてはすでに「昭和58年度保護水面管理事業調査報告書」（沖水試資料No.78）で報告したので、調査内容と結果を要約して記載する。

1. 目的および内容

有用水産動植物資源の繁殖保護に重要な機能をもつと考えられる海草藻場を保全し、その生態的メカニズムを明らかにするため植物、餌料、魚類、および環境面から各種調査をおこなった。植物調査はリュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度の周年変化を、餌料生物としては底生動物の生息量を調べた。また、小型追い込み網と樹網による漁獲試験と既設の人工礁を観察して、藻場付近の魚類相を調べ、さらに保護水面設定時から継続して実施している水質調査もおこなった。

2. 要 約

(1) 海草の生育密度の季節的变化を調べるために、定点に方形枠を3ヶ所設置し、毎月枠内のリュウキュウアマモとリュウキュウスガモの株数を計測した。リュウキュウアマモは5月にもっとも繁茂し、その後は減少した。また、リュウキュウスガモは夏季にもっとも繁茂した。

(2) 1983年7月11日と12月14日に底生動物の調査をおこなった。個体数では線虫類と多毛類が多く出現し、夏季に比べて冬季の出現数が多かった。

(3) 1983年6月21日から27日にかけて樹網漁獲試験をおこなった。6日間の取り上げで合計42種類、137個体、約63.33kgの漁獲があった。そして、ボラ、ゴマアイゴ、およびアオリイカを多く漁獲した。

(4) 1983年5月19日から10月17日にかけて幼稚魚調査を実施した。期間中の漁獲物の合計は約61種類、4356個体であった。そして、イソフエフキ、ルリスズメ、ハラスジベラ、およびアイゴ類などを多く漁獲した。

(5) 1983年8月8日に人工礁調査をおこない魚の増集状況を観察し、約17種、110個体がみられた。

(6) 1983年7月30日、10月27日、および1984年1月23日に水質調査をおこなった。結果は前年度とほぼ同様であった。